

日本生物学的精神医学会

会 員 通 信 第 59 号

1. WFSBP Congress 開催地決定のお知らせ	武田雅俊 (理事長)
2. 日本生物学的精神医学会理事会議事録	武田雅俊 (理事長)
3. 第 32 回日本生物学的精神医学会開催案内	中村 純 (会 長)
4. 2010 年度前期の国際学会発表奨励賞候補者の応募について	武田雅俊 (理事長)

WFSBP Congress 開催地決定のお知らせ

日本生物学的精神医学会理事長 武田雅俊

日本生物学的精神医学会では、かねてから WFSBP Congress の日本誘致に向けて活動してきました。2009 年 3 月末に応募書類を WFSBP 本部に届け、2009 年 6 月のパリ大会には日本からの参加者が Japan Night を開きアジアでの開催の必要性をアピールしました。パリ大会では WFSBP 執行部の役員選挙がおこなわれ、新理事長に Florence Thibaut 先生 (フランス) が選出されました。また執行部の役員の一に平安良雄先生 (横浜市大) も選出されました。WFSBP Congress の開催地決定は、新執行部で検討するということになり先送りになりました。昨年 9 月の EC Meeting での決定が期待されていたのですが、WFSBP Congress の規模を見直すということがあり、それに対応して新たな提案書の提出が求められました。そして、最終的に本年 3 月 3 日に行われたミュンヘンでの EC Meeting において、プレゼンテーションをさせていただきました。その結果 2013 年の WFSBP Congress は下記のように京都で開催することに決定されました。

記

会議名 第 11 回世界生物学的精神医学会
(The 11th WFSBP Congress)

略 称 WFSBP2013KYOTO

期 日 2013 年 6 月 23 ~ 27 日

場 所 京都国際会議場

WFSBP Congress はこれまでほとんどヨーロッパの都市で開催されてきており、WFSBP2013 KYOTO はアジアで最初の大会となります。アジアの生物精神の発展に大きく寄与するものと期待されています。日本生物学的精神医学会は、これから WFSBP2013KYOTO の準備に入ることとなりますが、会員のご協力をお願いいたします。

日本生物学的精神医学会理事会議事録

日 時：2009 年 10 月 4 日 (日) 13 : 00 ~ 16 : 00

場 所：八重洲倶楽部 「第 11 会議室」

出席者：11 名

武田雅俊 (理事長), 加藤忠史, 曾良一郎,
平安良雄, 本橋伸高, 大久保善朗,
笠井清澄, 佐野 輝, 白川 治, 福田正人
(以上理事), 渡辺義文 (監事)

欠席者：7 名

加藤進昌, 小山 司, 染矢俊幸, 米田 博,
尾崎紀夫, 山脇成人 (以上理事),
松岡洋夫 (監事)

(順不同, 敬称略)

議 題：

1. 前回 (2009/4/23) 理事会議事録承認について
2. 理事長報告
3. 第 31 回年会決算報告 (武田理事長 (林前会長))
4. 各委員会報告
 - 1) 総務委員会 (小山理事, 大久保理事)
 - 2) 財務委員会 (米田理事, 染矢理事)
 - 3) 国際交流委員会 (平安理事, 武田理事長)
 - 4) 学術賞委員会 (加藤 (忠) 理事)
 - 5) 倫理委員会 (本橋理事, 白川理事)
 - 6) 将来計画委員会 (加藤 (進) 理事, 笠井理事)
 - 7) 関連学会対応委員会 (佐野理事)
 - 8) 編集委員会 (曾良理事, 福田理事)
 - 9) 広報委員会 (山脇理事)
 - 10) プレインバンク設立委員会 (加藤 (忠) 理事)
 - 11) 研究推進ワーキンググループ (加藤 (忠) 理事, 笠井理事)
 - 12) うつ病対策ワーキンググループ (加藤 (進) 理事)
5. WFSBP 報告 (平安理事)
6. 第 32 回年会準備状況報告 (武田理事長 (中村会長))
7. 第 33 回年会準備状況報告 (加藤 (進) 次期会長)
8. 第 33 回年会について (武田理事長)

9. その他

1. 前回 (2009/4/23) 理事会議事録の確認

武田理事長より、前回理事会議事録が提示され確認後、多少の訂正を以って承認された。

2. 理事長報告

武田理事長より、評議員会での正式承認事項ではないが、2012年のWFSBPを京都に誘致するため、Bid Bookなどを作成しWFSBPのExecutive Memberなどに配布するなど誘致活動を行っていることが報告された。

3. 第31回年会収支報告

武田理事長から、林第30回年会会長からの資料に基づき、以下の通り報告された。

収入は年会参加費¥5,702,000 - (501名)、懇親会参加費¥493,000 - (88名)、抄録販売費¥1,050,000 - (159冊)を含む¥21,894,461 - であり、支出も同額の¥21,894,461 - であった。

また、収入として、海外からの若手招請費¥1,500,000 - が含まれていることが報告された。実際には要件であるアジア地域からの若手研究者に対しての援助には使用されていないが、単独開催のためもあり、収入不足から本学会として補填する形になったことが報告され、承認された。

4. 委員会報告

1) 総務委員会

大久保委員より、法人化についての検討を進め、また新規入会者を増やす方策について検討していることが報告された。本学会での認定制度の設置について意見があった。

2) 財務委員会

委員長欠席により、武田理事長より報告された。財政状況は厳しく毎年若干の赤字を計上していることが説明された。

3) 国際交流委員会

平安委員長より、以下のとおり報告された。

①パリで開催された総会にて理事長および役員6名が更新され、新理事長にフランスのチボー氏が就任した。

②WFSBPの課題としては、財政状況の改善とVoting Powerの整備(およびそれによるアメリカBPの復帰)が上げられるが、財政状況については暫時改善され

つつあり、Voting Powerについても当分は保留ながら多少の前進があった。

③パリで開催された学会について、会期を4日間に短縮したものの、約4,000名の参加者があり、約€450,000 - の収益があったことが報告された。

④次回プラハで開催される学会のInternational Scientific Program Committee Co-chairmanに武田理事長を推薦することが提案され、承認された。

4) 学術賞委員会

加藤(忠)委員長より、学術賞、国際学会発表奨励賞ともに応募数が少ないことが指摘され、ホームページなどで広報するとともに会員歴の制限について2年に短縮することが提案され、承認された。

5) 倫理委員会

本橋委員長より症例報告の倫理規定について、次回理事会にて最終案を提示することが報告された。この指針は機関誌などで公表される。

6) 将来計画委員会

加藤(進)委員長よりの資料に基づき武田理事長より、年会期間中の若手シンポジウム開催について提案があり、検討された。若手により企画運営される若手シンポジウムについて提案され、懇親会が開催されない日程の夕方などに開催する、海外で活躍する日本人研究者などを軸に開催するなどの意見があった。

また、第33回年会期間中のシンポジウムについて、第33回会長でもある加藤(進)委員長より開催案が提示され、プログラムに重ならない日程で開催すべきなどの意見があった。

7) 関連学会対応委員会

佐野委員長より、日本神経化学会、日本神経科学会などとの合同シンポジウムについて検討中であることが、報告された。

8) 編集委員会

曾良委員長より以下の通り報告された。

①広告掲載の増加を目指して委員長・副委員長名で各企業に依頼した。

②年会抄録集を機関誌に組み入れ、年間5冊の発行とする(次回年会より)。但し、内容については従来どおり会長一任とする。

- ③学会機関誌を従来の B5 判から A4 判に移行することが提案され、第 21 巻 1 号から A4 判とすることが承認された。
- ④J-Stage の利用について申込みを行うことが報告された。電子ジャーナル化するか、ある程度の査読が必要ではないか、他学会と足並みを揃える必要性などが指摘され、年会抄録号の扱いなどについて引き続き検討することとなった。
- ⑤学会機関誌の名称を現行の「脳と精神の医学」から「日本生物学的精神医学会誌」に変更することが提案され、承認された。
- ⑥編集・企画方針について評議員にアンケート調査を実施した結果が報告された。編集委員会で検討していることが説明され、手がけることのできる企画から順次、実施していくことが了承された。
- ⑦20 巻 3 号および 4 号の刊行について報告された。
- 9) 広報委員会
山脇委員長よりの資料に基づき、武田理事長より以下のとおり報告された。
学会ホームページについて、現状のデザインが暗いとの意見があり、全面改訂を視野に入れて費用の見積もりなど検討中である。学会誌のデザインも一新されることから、デザインの一貫性について意見があった。
精神医学分野の他の委員会との合同委員会の開催について提案された。
- 10) ブレインバンク設立委員会
加藤（忠）担当理事より、以下のとおり報告された。
来週に開催される委員会において報告書をまとめ、学会機関誌に掲載する予定である（別刷として印刷予定）。
ブレインバンクの倫理に関して定めがない状態であるので、倫理委員会と協力してブレインバンクに関する倫理委員会を設置し、法解釈を提示できるようにすることが提案された。
また、画像データのあるブレインバンクについて申請中である。
- 11) 研究推進ワーキンググループ
加藤（忠）担当理事より科学研究費補助金の採択率などについて説明され、特に脳神経科学分野の採択率が低調であることが指

摘され、対策の必要性が指摘された。

12) うつ病対策ワーキンググループ

加藤（忠）担当理事より本学会が発したうつ病に関する提言に対し、文部科学省や一部研究者などから意見があったことが報告された。

研究費の増額だけでなく、包括的な体制が必要であることが説明された。

政権交代があったこともあり、今後は精神疾患について着実に国民に対して啓発していくことの必要性が指摘された。

また、来年度の脳科学推進プロジェクトにうつ病を入れること、うつ病に関する提案をまとめて学会機関誌に掲載することなどが提案され、承認された。

5. WFSBP 報告

平安理事より以下のとおり報告された。

今回はプラハにて、2011 年 5 月 29 日～6 月 2 日の日程で開催される。

6. 第 32 回年会準備報告

中村会長に代わり武田理事長より、以下の通り報告された。

会期：2010 年 10 月 7 日～9 日

会場：リーガロイヤルホテル小倉（予定）

会長：中村 純（産業医科大学精神医学教室）

第 45 回日本アルコール・薬物医学会と第 13 回ニコチン薬物依存研究フォーラムが同時期に同会場で開催される。

また、抄録集のサイズを A4 とすること、若手シンポジウムの企画、特別講演の計画などについて報告された。

7. 第 33 回年会準備状況報告

加藤（進）次期会長よりの資料に基づき、武田理事長より以下のとおり報告された。

①日程について

日本精神神経学会との同時開催となるため、日本精神神経学会開催日程が 2011 年 5 月 19 日（木）～21 日（土）であるため、5 月 21 日（土）～22 日（日）を本学会のプログラムとすることと予定しているが、従来が 3 日間であったことから 23 日（月）まで日程とするかどうかについて提案があり、日本精神神経学会会期と併せると長期となるため 2 日間の日程として 22 日（日）までを会期とすることとなった。

②会場について

ホテルグランパシフィック LE DAIBA (日本精神神経学会会場) やホテル日航東京 (隣接会場と交渉中である。

8. 第34回年会について

武田理事長より、第34回年会について、日本神経化学会が2012年6月にアジア・オセアニア大会を開催する予定であることから合同開催の可能性や、第35回年会が2013年6月にWFSBPとの同時期開催になるであろう情勢などを踏まえて検討すべきとの指摘があった。

以上

第32回日本生物学的精神医学会開催案内

テーマ：脳科学からこころの理解へのプレイクスルー

会期：2010年10月7日(木)～9日(土)

会長：中村 純(産業医科大学精神医学教室・教授)

会場：リーガロイヤルホテル小倉

〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-2

TEL 093-531-1121 FAX 093-521-2730

<http://www.rihga-kokura.co.jp/>

同時開催：平成22年度 アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会

演題登録機関：4月16日(金)～6月15日(火)

事務局：産業医科大学 精神医学教室

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

電話 093-603-1611 (内線2486)

運営事務局：(株)コンベンションリンケージ内

〒821-0016 福岡市博多区博多駅南

1-3-6 偕成ビル

電話 092-437-4188

ファックス 092-437-4182

メール jsbp32@c-linkage.co.jp

2010年度前期の国際学会発表奨励賞候補者の応募について

2010年前期(4月から9月)に開催される国際学会を対象として下記の要領で募集を行いますので奮って応募(推薦)して下さい。なお、評議員の先生方には推薦用紙が送付されます。

記

1. 規定は以下の通り

2. 推薦用紙、評価の参考となるもの(抄録、サーキュラー、学会プログラムなど) 8部を同封し、下記事務局宛ご送付下さい。
3. 応募締切日 2010年6月30日(水)

以上

送付先：〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13-4F

一般社団法人学会支援機構内

日本生物学的精神医学会事務局

理事長 武田 雅俊

日本生物学的精神医学会国際学会発表奨励賞規定

1. 設置 日本生物学的精神医学会は規定により研究奨励賞(国際学会発表制度)を設ける。
2. 名称 名称は、日本生物学的精神医学会国際学会発表奨励賞とする。
3. 対象 原則として応募時年齢35歳未満の会員で、国際学会に参加し、将来性のある優れた研究を発表する者に贈られる。対象となる学会および発表される研究内容については選考委員会が評価を行う。
4. 表彰 研究奨励賞は賞状および副賞とし、副賞は15万円とする。
5. 募集 募集は年2回行う。前期は当該年度4月から9月の間に、後期は当該年度10月から3月の間に開催される国際学会に参加する者を対象とする。
6. 選考
 - 1) 研究奨励賞を選考するために本学会内に選考委員会を設ける。
 - 2) 選考委員は理事・評議員より理事会で選出する。委員長は委員の互選により決定する。委員は6名とし任期は2年とする。再任は妨げない。
 - 3) 選考対象者と同一講座(大学以外の機関はこれに準ずる部局)に所属する選考委員は、その年度の選考には加わらないものとする。
 - 4) 選考委員会は受賞者を決定し、委員長は当該者なしの場合も含めて理事長に報告する。委員長は年会の際に開催される理事会に選考経緯および結果を、また評議員会に選考結果を報告する。

付 則(1) 本規約は1999年4月22日より施行する。